

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告公表票

【評価実施概要】

事業所番号	0270800311
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社
事業所名	グループホームバンドー下北
所在地	むつ市新町32-15 (電話) 0175-23-5541
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年12月11日

【情報提供票より】(平成 21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	17人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1、2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要( 10月1日現在 )

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	7 名	要介護2	11 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人芳龍会千田医院(内科)、上條佐藤(歯科)
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な・その人らしく」というホーム独自の理念を掲げて全職員に周知しており、常に理念を念頭に置いたケアを提供するよう努めている。  
 ホームは、縫製工場であった建物を改修しており、廊下の幅やトイレの広さ等、全体的にゆったりとした環境となっている。また、共用空間に家具を設置したり、季節感のある装飾品を施すなど、家庭的な空間となっている。  
 看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、看取りや重度化の指針を明確にしており、契約時には指針を配布し、利用者や家族に詳しく説明して意思統一を図っている。  
 年間の内部研修計画に基づいて研修を実施しており、受講後は報告書を作成し、職員会議等で全職員に周知している。また、月1回のカンファレンスで困難事例等に関する研究を行ったり、新しい介護技術に関する資料を全職員に配布するなどの取り組みを行っている。

【特に改善が求められる点】

ホーム独自の理念を作成しているが、地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、地域におけるホームの役割などを含んだ理念を作成することに期待したい。  
 自己評価は日々の仕事を見つめ直す機会となることから、全職員で取り組むことに期待したい。  
 権利擁護について、全職員が概要を理解するまでには至っていない。全職員が理解を深められるよう、内部研修を実施する予定なので、今後の取り組みに期待したい。  
 系列事業所内の職員で勉強会を開催する等、職員同士がサービス向上などに向けて意見を話せる場を設けることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に、改善課題を職員会議等で話し合い、出来ることから改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>カンファレンスを通じて、全職員に自己評価及び外部評価の意義を周知しており、職員は理解しているが、自己評価は各ユニットの管理者が作成しており、職員が参画するまでには至っていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の民生委員や家族等から成る運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、今年度は行政関係者として、新たに地域包括支援センター職員が委員となっており、様々な情報を得ている。会議では、ホームの現状や評価結果を報告し、積極的に委員から意見を出してもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便り等を通じて、暮らしぶりなどを定期的に家族に報告している。また、ホーム内の目に付くところに苦情受付窓口を掲示したり、家族面会時には個別に声掛けするなど、気軽に意見等を話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、行事に参加する等の交流を図っている。また、住民が踊りを披露するために訪れるなど、ホームが地域に定着している。避難訓練の際は、近隣住民に参加を呼びかけるなど、気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みを新たに行っている。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、行事に参加する等の交流を図っている。また、住民が踊りを披露するために訪れるなど、ホームが地域に定着している。避難訓練の際は、近隣住民に参加を呼びかけるなど、気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みを新たに行っている。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。</p>

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>玄関や職員休憩室、職員室など、理念を目の付く所に掲示するほか、理念の共有化するために、全職員で話し合いを行っている。</p> <p>全職員は、高齢者虐待が重大な事であると認識している。また、管理者は、虐待を未然に防ぐよう、職員のケアに目を配っている。虐待を発見した場合の対応や報告の流れについては、事故発生時のマニュアルに明記している。</p> <p>特に必要な場合を除き、職員の配置換えは行っていない。新規採用職員については、利用者が自然と馴染めるよう十分に説明すると共に、職員間での引き継ぎを行い、利用者に関心の負担が無いよう配慮している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者宅を訪問し、利用者や家族の希望を引き出すようなコミュニケーション作りを心がけている。また、利用者にホーム内の雰囲気を感じてもらい、利用者や家族の意向にそったサービス開始となるよう支援している。</p> <p>職員は、一緒に見る、聞くなどして一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、個々の力量や好みを把握しており、食事の支度や畑作業などの得意分野で力を発揮してもらっている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画は、担当職員のみではなく、ケアカンファレンス時に職員間で十分話し合っ作成している。また、面会時などに家族の希望等を聞き、計画作成時に反映させている。</p> <p>定期受診や日々の医療に関する相談等は、市内の協力医療機関に気軽に相談することができる。また、受診結果については、その都度速やかに家族に報告している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の希望を優先して献立を作成するほか、一人ひとりの好き嫌いに応じて食品を変えるなどの配慮を行っている。食事の準備や後片付け時には、利用者の力量に応じて一緒に行っている。また、職員も一緒に席について食事を摂り、会話を楽しんでいる。</p> <p>利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、ホームの畑作業、庭いじりや草取り、買い物や散歩など、一人ひとりの希望に沿って、日常的に外出する機会を設けている。また、利用者の希望を聞きながら、日帰り旅行を実施するなどの取り組みも行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。「家庭的な・その人らしく」というホーム独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映するまでには至っていない。	○	全職員が地域密着型サービスの意義を理解しているため、話し合いを行うなどの取り組みにより、地域におけるホームの役割などを盛り込んだ理念を作成することに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催する職員会議において、全職員で理念の確認を行うなど、理念を常に念頭に置き、日々のケアサービスを提供している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、行事に参加する等の交流を図っている。また、住民が踊りを披露するために訪れるなど、ホームが地域に定着してきている。避難訓練の際は、近隣住民に参加を呼びかけるなど、気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みを新たに行っている。外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンスを通じて、全職員に自己評価及び外部評価の意義を周知しており、職員は理解している。外部評価の結果は職員会議で全職員に周知し、より良いサービスに向けた話し合いを行うなどの取り組みを行っているが、自己評価は、各ユニットの管理者が作成しており、職員が参画するまでには至っていない。	○	自己評価に職員も一緒に取り組むことで、日々の業務を見つめ直す機会となることから、全職員で作成することに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や家族等から成る運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、今年度は行政関係者として、新たに地域包括支援センター職員を委員にしており、様々な情報を得ている。会議では、ホームの現状や評価結果を報告し、積極的に委員から意見を出してもらっている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットや広報誌を配布するほか、評価結果を報告するなど、行政との連携が図れるよう働きかけを行っている。また、地域包括支援センター職員から様々な情報を得るなど、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する制度について概ね理解しているが、全職員が概要を理解するまでには至っていない。	○	全職員の理解を深めるため、内部研修を実施する予定なので、今後の取り組みに期待したい。また、利用が必要な人への情報提供を行う体制作りにも期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、高齢者虐待が重大な事であると認識している。また、管理者は、虐待を未然に防ぐよう、職員のケアに目を配っている。虐待を発見した場合の対応や報告の流れについては、事故発生時のマニュアルに明記している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書に基づいて、理念やケアの方針等を丁寧に説明し、利用者や家族の疑問に対応している。また、契約改訂時にも十分説明し、新たな契約書を交わしている。退居時には、利用者や家族に理由等を説明し、家族が戸惑うことのないよう細やかに情報提供するなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを2ヶ月に1回発行し、暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、受診状況は随時伝えている。金銭管理状況は出納帳に記録しており、月に1度、出納帳と領収書のコピーを添付して報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時は声がけし、意見や要望を引き出すよう心がけている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示するほか、各ユニットに掲示し、継続的に家族等に周知している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特に必要な場合を除き、職員の配置換えは行っていない。新規採用職員については、利用者が自然と馴染めるよう十分に説明すると共に、職員間での引き継ぎを行い、利用者に心身の負担が無いよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画に基づいて研修を実施しており、受講後は報告書を作成し、職員会議等で全職員に周知している。また、月1回のカンファレンスで困難事例等に関する研究を行ったり、新しい介護技術に関する資料を全職員に配布するなどの取り組みを行っている。ホームとして、外部研修への職員派遣は行っていないが、研修の機会を与えるため、研修案内を周知し、各自での参加を促している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、系列事業所との合同会議に参加し、その内容を全職員に周知しているが、職員が同業者との交流を図るなどの取り組みを行うまでには至っていない。	○	系列事業所内の職員で意見交換を行う場を設けるなど、職員も他事業所との交流を図る取り組みに期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者宅を訪問し、利用者や家族の希望を引き出すよう、コミュニケーション作りを入念に行っている。また、利用者にホーム内の雰囲気を感じてもらうなど、利用者や家族の意向にそったサービス開始となるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とのコミュニケーションが大切であることを認識しており、日々利用者の視点に立ち、一緒に見る、聞くなどして一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、個々の力量や好みを把握しており、食事の支度や炊作業などの得意分野では力を発揮してもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりを通じて、個々の力量や食事の好み、趣味など、生活全般における希望や意向を把握している。利用者の希望に基づいて支援することで、新たな希望や意欲を把握するなど、一人ひとりがやりたいことを見つけようと努めている。また、面会時に家族から情報収集も行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者の意向を把握するとともに、面会時等を通じて家族から情報収集している。また、担当職員のみではなく、ケアカンファレンス時に職員間で十分話し合い、作成しており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、定期的に見直しを行っている。また、日々の観察や記録、家族面会時、利用者との日常の会話から、状態や意向の変化を把握するよう努めており、変化がある時には随時見直している。見直し時には再アセスメントを実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、外出時は利用者の希望を聞くなど、柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、かかりつけ医や協力病院など、利用者や家族の希望に応じた医療機関での受診を支援している。また、看護師の資格を持つ職員がおり、いつでも気軽に相談できる体制となっている。受診結果は詳細を記録し、家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りや重度化の指針を明確にしており、契約時には指針を配布し、利用者や家族に詳しく説明して意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等で、利用者への対応について確認し合っており、利用者の言動を否定することなく、年長者と接していることを常に意識し、利用者の羞恥心等に十分配慮した対応を日頃から徹底している。また、職員は個人情報保護法を概ね理解しており、ファイル等の個人記録は、利用者や訪問者の目の付く所には置いていない。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の話に耳を傾け、一人ひとりの意向を優先している。また、希望や身体状況、その日の状態等に配慮して柔軟に対応するよう努めている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら献立を作成し、好き嫌いに応じて食材を変えるなどの配慮を行っている。食事の準備や後片付け時には、利用者の力量に応じて一緒に行っている。また、職員も一緒に席について食事を摂り、会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調等を確認しながら、時間帯など、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。入浴を拒否する利用者に対しては、時間をずらして声がけするなど、無理強いすることなく入浴を促している。また、どうしても入浴出来ない場合には、清拭や足浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話や家族からの生活歴等の情報収集により、利用者の希望を把握しており、個々の現在の状況を把握した上で、役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、ホームの畑作業、庭いじりや草取り、買い物や散歩など、一人ひとりの希望に沿って、日常的に外出する機会を設けている。また、利用者の希望を聞きながら、日帰り旅行を実施するなどの取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアカンファレンス等を通じて、身体拘束の内容などについて職員間で確認しており、拘束の無いケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、理由や方法等を記録したり、家族から同意を得る体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、職員の見守りのみで外出を察知することが困難であること、外部からの侵入者を防ぐこと、ホームが道路に面していることから、契約時に家族の同意を得た上で、各ユニット入口を施錠している。居室等、利用者が日常出入りする場所は施錠していない。外出傾向を察知した時は、職員が付き添って外出するなどの対応を行っている。また、無断外出時に備えて、町内会を通じて協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を含め、詳細な避難誘導策を作成している。また、年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、利用者も実施している。災害時に備え、食料等の備蓄品も準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の専門家から定期的に助言を得ながら、栄養バランスに配慮した献立を作成している。また、利用者全員の食事や水分の摂取量を記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等に関するマニュアルを作成しており、必要に応じて法人本部等から情報を収集し、見直している。また、感染症等についてケアカンファレンス時に勉強会を開催し、発生時に適切に対応できるよう努めている。感染症に関する情報は、便りなどを通じて、随時家族にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には家具を設置するなど、家庭的な雰囲気となるよう配慮している。また、壁面などには、利用者と共に製作した季節の飾りつけを施すなど、季節感にも配慮している。テレビや音楽等の音量、日射しの強さなども適切である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や面会時に、馴染みの物を持ってきてもらうよう積極的に家族に声掛けしている。また、利用者や家族の希望を聞き、一人ひとりが過ごしやすい居室作りを行っている。		

※  は、重点項目。